

夜

視野を包围し

視神経を疼かせて

粟粒すゝヒロシマの灯

盛りあがる傷痕

ケロイドのフツツの皮膚にいつつて

めいれ赤紫の微光 執付めくくり

やうもつり臭う泥道に

煙け焦げたまふ樹幹からふよふより草が吹す

粟雨の衣

女の瞳はさきの火よりもあかく

大ももに山崩れは痣をかこさず

ヒロシマよ

原爆が不毛の隆起を遺すあまえりの夜

女はぼよむことを忘れ

俺の精虫は尻尾を垂れ

新倉の恥

比治山に園の樹影が古南の輝くアキチの建業

ヒロシマの中心アメリカ

原爆被害者追悼会

敵船すれり出さず高海軍のテールライトか

ニエルクとコシ港の土民をさすこいじませよ

夜より明けたる

あけがたより夜の闇え

海をまうヒロシマの灯

とあく吊された灯

ふらまけくは泡沫のよる灯

おひえつた忘れまうとしいる灯

慄えの灯 燃えろ灯

痛みつた病むと知らぬ灯

↑ アメリカを「外口」にせよ
↑ Aとくじり正確な名編を

〔彼方は岸の底を窺ふに
のちあたる花片と股で
しげむしり
捕獲の女はこどももなかりわい入る〕

今つきの
種な存電は
眼帯をかける列車の取
ステーション
屋上

カニ・オミ・チ百番目の原野実験をしるせよ
例外で毒く不整な心臓を轉りて
消防自動車はとつぎよ武裝警官を撒き
訓練するヒストルの果敢発射をみて
播種するヒストルの灯

ハラ色や皮下組織に
ぬれた軌條が
くつ鉄のうしろ足跡をかくし
空漫り輝きとをなせ
夜々は海かうしりひきませる

蝶のような黒く
羽ばたきながら空をよするものもある
一刻ずつ 一刻ずつ
血脈をひきき言いつつ
いまもあの日かうとみふかりながら
さぐりに恐ろしい御會宴を
いざりよるヒストルの光
歴史の園に今宵も
しづかに低く
ヒストルの光は溢れ

かみかみほろろと血を流して
神はさうかよる降りる河上
ゆれしむハート
そら中下と身を起す
兵士
くつ鉄漫りり足跡を不き
枝は海かうしりのひませよ